

<対策のポイント>

米の輸出拡大や麦・大豆の増産による食料安全保障の確保に向けては、米の多収品種の導入やブロックローテーションによる米・麦・大豆等の収量向上によって生産コストを低減しつつ生産力を強化する必要があることから、産地における米の超低コスト化や、最適なブロックローテーションの構築を目指し、米・麦・大豆等の収量向上と生産コスト低減意識の醸成を基調とした水田経営モデルの確立に向けた取組を支援します。

<事業目標>

- 担い手の米生産コスト（9,600円/60kg）

<事業の内容>

1. 米の超低コスト生産モデル確立支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術・多収品種の導入実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

（補助率：定額（上限1,000万円/コンソーシアム））

※1 事業実施期間は最長3年間とします。

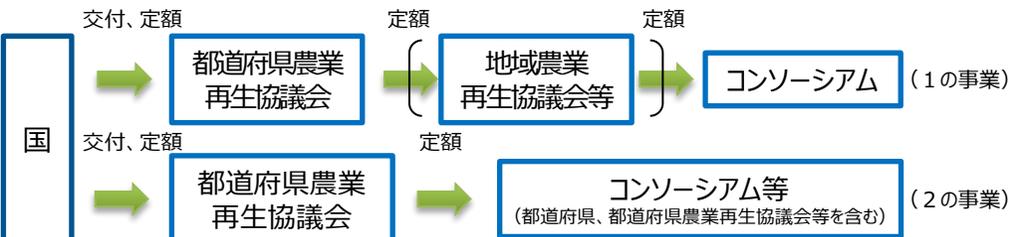
※2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

2. ブロックローテーションの最適化モデル確立支援

都道府県農業再生協議会が水田における最適なブロックローテーションを普及するため、**管内の優良事例を調査するとともに、更なる収量の向上やコスト低減に向けた技術実証や品種導入等の取組を支援**します。

（補助率：定額（上限500万円/コンソーシアム等））

<事業の流れ>



<事業イメージ>

米の超低コスト生産モデル確立支援



<超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減に向けた技術・多収品種の実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

ブロックローテーションの最適化モデル確立支援

<最適なブロックローテーションの普及に向けた取組>



- コスト構造の分析や優良事例の調査、調査結果の普及
- 更なる収量の向上やコスト削減に向けた技術等実証や品種導入

米の生産コスト低減に向けた取組について（令和5年度実証事業）

令和5年度『稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業』取組事例

- 事業実施主体：愛知県米トータル生産コスト低減対策協議会（県、4市町村、JA、農業者（5経営体）等）
 - 水稲作付面積：148ha（R5年度）

コスト低減効果：R2年度 14,082円/60kg
 ⇒ **R5年度 11,019円/60kg (▲3,063円/60kg)**

- 主な取組内容【R5年度】（取組2年目）

技術実証に係る取組

『V溝直播＋止水板＋水位センサー＋自動給水装置』
 ⇒ 育苗時間削減、作期分散による生産性向上、
 水管理見回り回数減少による労働費の削減
 (慣行：3.9回/週 ⇒ 設置後：1.7回/週)



『AgriLook（生育予測診断システム）＋衛星画像診断』による適所施肥
 ⇒ 生育不良圃場の把握により、追肥ほ場では、単収が向上
 コシヒカリ 追肥なし：466kg/10a、追肥あり：528kg/10a
 あいちのかおり 追肥なし：565kg/10a、追肥あり：640kg/10a



生産コスト分析、人材育成に係る取組

- コンサルタントによる
 - ✓ コスト・経営分析
 - ✓ コスト低減・経営改善指導研修
- 生産者の
コスト意識向上

生産コスト低減の検討、成果普及に係る取組

低コスト生産のための改善検討会の開催、取組成果報告会の開催

- 事業実施主体：佐賀県産米生産コスト低減対策協議会（県、3市町、農業者（5経営体）等）
 - 水稲作付面積：73ha（R5年度）※中山間地を含む

コスト低減効果：R4年度 13,294円/60kg
 ⇒ **R5年度 12,313円/60kg (▲981円/60kg)**

- 主な取組内容【R5年度】（取組1年目）

技術実証に係る取組

『ドローン播種』

⇒ 種まき、育苗、苗移動、田植え時間の削減
 (慣行：228分/10a ⇒ 実施後：55分/10a)



『水位センサー』

⇒ 田植え前水管理、田植え後水管理時間の削減
 (慣行：150分/10a ⇒ 実施後：37.5分/10a)



『ラジコン草刈機』

⇒ 堤、畦畔の草刈り時間の削減
 (慣行：40分 ⇒ 実施後：28分)



『ロボットトラクター』

⇒ トラクター作業時間の削減
 (慣行：90分/10a ⇒ 実施後：45分/10a)



生産コスト分析、人材育成に係る取組

- コンサルタントによる
 - ✓ コスト・経営分析
 - ✓ コスト低減・経営改善指導研修
- 生産者の
コスト意識向上

生産コスト低減の検討、成果普及に係る取組

低コスト生産のための改善検討会の開催、取組成果報告会の開催



- 米の生産コスト低減により、
- 主食用米の米価変動に耐え得る生産
 - 輸出等の新市場開拓用米の可能性を拡大

- 今後の課題
 主食用米の生産を集約し、他作物の生産を拡大